

【農林水産物・食品の広報】 日スイス国交樹立160周年記念レセプション(スイス)

在スイス大使館

開催日: 令和6年2月6日

場 所: ベルン市内ホテル(ホテルシュバイツァーホフ)

主催: 大使館

協力/経産省、福島県の酒類生産者(haccoba, Inc.及び株式会社ホップジャパン)

【概要】

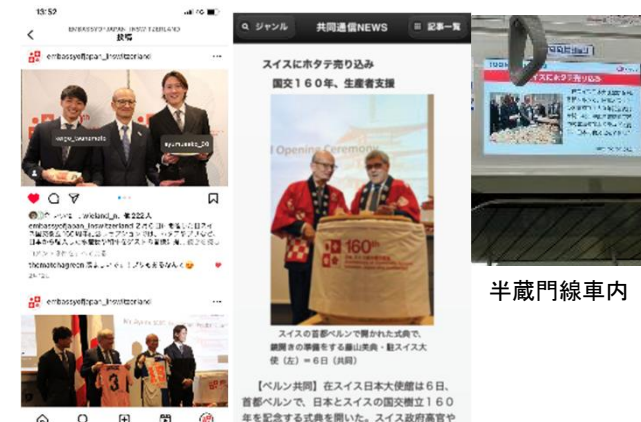
- 日スイス国交樹立160周年記念日となる2月6日、首都ベルンにおいて、スイス政府高官らを招いたレセプションを開催。ヌスバウマー・スイス国民議会議長、ヒラヤマ教育・科学・イノベーション庁長官、ホーファー農業庁長官をはじめ、政府・企業・学術・文化関係者、日本食関係事業者、メディア関係者ら約150名が出席。
- スイスのサッカースーパーリーグで活躍する2名の日本人選手(常本佳吾選手・瀬古歩夢選手)が登壇し、メディアからの取材に応じるとともに会場に花を添えた。
- 経産省福島復興推進グループ・福島広報戦略・風評被害対応室の協力により、福島県から酒類生産者が来場し、ゲストに福島県産ビール等の試飲を提供した。
- スイス国内の食品バイヤーが多数来場し、レセプションの前後に日系輸出事業者とスイス国内のポテンシャルバイヤーを繋げることができた。(特に、本レセプションに関係者が来場した当地高級デパートチェーンGLOBUSは、本レセプション当日から3週間、当館及びJETROジュネーブとの協力によりホタテ等の試食会を含む日本食品フェアをスイス国内全9店舗で開催しており、これらとあわせ今後の販路拡大も期待される。)
- 事後には、共同通信による記事が多数キャリーされ、本邦各紙をはじめ様々な媒体で報道がなされたほか、東京メトロ内の電子記事でも配信された。また、日本の雑誌社GEN DE ARTが3ページにわたる特集記事を組み、国交樹立160周年と日本産食品の魅力に関して報道。併せて、当館HP及びインスタグラムでも事後広報を行った。
- 参加者からは、新鮮な日本産水産物や和牛に対する非常に好評な感想が多く寄せられた。(コメント例: スイスのスーパーで買えるホタテより、日本産ホタテの方が肉厚で美味しい・この和牛がどこで買えるのか知りたい・福島県産ビールがライトで飲みやすかった) また、日スイス国交樹立160周年という節目にこのようなレセプションに参加できたことを光栄に思うといったコメントが多数寄せられた。



スイス政府高官らとともに鏡開き



ホタテ寿司やブリの刺身を手にする常本佳吾選手、瀬古歩夢選手と大使(中央)



当館インスタ

共同通信